

A large, expressive red brushstroke graphic that sweeps across the page from the bottom left towards the top right. The stroke is composed of many overlapping, slightly irregular lines, giving it a sense of movement and energy. It is set against a plain white background.

東京合唱協会

第一回定期演奏会

1985 3/2 こまばエミナース

ごあいさつ

本日は、お忙しいところ私共の第1回定期演奏会にお越し下さいましてありがとうございました。

昨年4月に産声をあげて以来1年、ひたすら燃えるプロ合唱団目ざして頑張ってきました。

私共は、アマチュアの方々がもつ合唱に対する一途な熱意と愛情、この精神面をソリストになりうる力量をもった者達が、合唱の中にも持ち合せ、燃えてこそはじめて聴衆を感動の渦に導くことが出来ると信じ歩んでおります。

ご周知のように日本の文化予算は欧米と比べ大変お寒い状態にあり、しかも年々行革の名のもとに限りなく無に近づいてきております。私達のこうした歩みがこの様な厳しい状況を少しでも打開する糸口につながればと思いつつ今後も前進してゆきます。

どうか今後とも東京合唱協会の活動に暖かいご声援をお願いいたします。

東京合唱協会

輝かしい御誕生おめでとうございます。

燃ゆる東京合唱協会、の出現、力強いその確固たる意欲に“日の出”を見る思いがします。その発足第1回の記念すべき演奏会のプログラムに、私の拙作“軽井沢の四季”を高田先生や湯山先生の御作品と御一緒に取り上げて下さったこと、誠に感謝に絶えません。

主宰者であり指揮者の内藤さんには、愛情と勇気、そして動じることのない純粋な音楽的態度を感じます。いつまでも、今の燃える心と、一人になっても闘うだけの勇気ある芸術的な潔癖さ、とを持ち続けること、それ自体、音楽の“才能”と云うべきものだと思いますし、またその闘い自体が音楽に必要な“神聖なロマン”を生み出すものであると思います。

僭越ながら、芸術とは、大きな、複雑な意味で言えば、“命をかけて創るもの”だとさえ思います。

今後、忙がしくなられても、スタートの気持をいつも新たに、天の豊かな恵みと共に、無限にお進み下さい。陰ながらお祈りして居ります。

東京合唱協会の船出を祝して！

若輩なる僕 岡本正美 拝

東・京・合・唱・協・会・に・よ・せ・て

燃えることの素晴らしさ

“燃えるプロ合唱団”とチラシにある。現代のこの渴いた社会で、“燃える”ことはなかなか難しい。管理社会に慣れた人間は燃えないし、下手に燃えてもつまらないというわけで、困難な障害を乗り越えてまでことさら燃えようとはしない。つまりそれだけ人間がドライになって、社会の砂漠化はアフリカではないけれど、深く静かに進行しているような気がする。

だが音楽だけは違う、いや、違って欲しいと思う。合唱という人間の声こゑを絆にした人間連帯の音楽芸術は、生きとし生けるものの歌を歌うために存在すると私は思っている。つまり歌う人それぞれが燃えなくては、どだい成立し得ない芸術なのである。

いまの日本はアマチュア合唱の花ざかりだが、それに反してプロ合唱団の経営基盤は極めて苦しい。その現状を認識したうえで、なお且つ、“燃えるプロ合唱団”をスローガンに勇躍旗揚げする内藤 彰 指揮の東京合唱協会に、心から激励の拍手を贈ろうと思う。

今日の演奏会には、私の「越後の恋歌」が歌われる。アマチュア合唱では少くとも50～60人の編成が必要なこの歌を、東京合唱協会は20人のメンバーで歌う。量よりも質を目指す彼等の演奏に期待して、“燃えるプロ合唱団”の新しい誕生をお祝いする次第である。

湯山 昭 作曲家 全日本合唱連盟 副理事長

プログラム

I. オペラ合唱曲集 (混声合唱)

歌劇「アイーダ」より「凱旋の場の合唱」———ヴェルディ

Aida *Gloria all' Egitto, ad lside* *Verdi*

歌劇「カルメン」より「恋は野の鳥」———ビゼー ソロ/稲田曲紀

Carmen *Habañera* *Bizet*

歌劇「椿姫」より「乾杯の歌」———ヴェルディ ソロ/新川比呂子 松永国和

Traviata *Libiamo ne' lieticalici* *Verdi*

指揮/内藤彰 ピアノ/清水義枝

短歌による女声三部合唱曲

II. 軽井沢の四季———短歌/後藤田恵以子 作曲/岡本正美

浅間は晴れて 晩夏のひかり 登り来し 輝きて 燃ゆるからまつの

雨の明るさ 夏逝かんとす くるみ落葉を踏みゆけば 光まばゆし

指揮/内藤彰 ピアノ/高畑多恵

女声合唱のためのファンタジー

III. 越後の恋歌———作詞/中村千栄子 作曲/湯山 昭

朱鷺の歌 雪女 越後の恋歌

指揮/内藤彰 ピアノ/高畑多恵 ソロ/遠藤恵子

——— 休 憩 ———

IV. ミュージカル「マイ フェア レディー」より (混声合唱)作曲/Frederick Loewe 編曲/鎮守めぐみ

〈From My Fair Lady〉

何てしあわせ

Wouldn't it be lovely?

運が良けりや

With a little bit of luck

一晩中踊り明かそう

I could have danced all night

君住む街角

On the street where you live

時間通り教会へ

Get me to the church on time

指揮/内藤 彰 ピアノ/清水義恵 振付/鈴木江美

イライザ/前中栄子 ドリトル/大沢 健 フレディ/又吉信元

混声合唱組曲

V. 水のいのち——————作詞/高野喜久雄 作曲/高田三郎

雨 水たまり 川 海 海よ

指揮/内藤 彰 ピアノ/清水義枝

曲目解説

I オペラ合唱曲集

アイダ エジプトとイージスの神に栄光あれ!
Aida Gloria all' Egitto ad Iside!

紀元前1500~1300年頃、場所はエジプト。

エジプトの將軍ラダメスは王座を護る神イージスの神託の命をうけ、エチオピア討伐を終えて帰国(二幕二場)「凱旋の場」で華麗なファンファーレに続いて力強く歌われる群衆の合唱。

カルメン 恋は野の鳥(ハバネラ)
Carmen L'amour est un oiseau rebelle

時は1820年頃、場所はスペイン。

セビリヤの町の広場、工場の鐘がなり、タバコ工場の女工達を待ちかまえる町の若者達の前に、赤い花を手にしたジプシーの妖婦カルメンが登場。いろよ返事を待っている男達の声をよそに、一人自分に無関心な竜騎兵伍長ドン・ホセを認めて歌う。

椿姫 友よさあ飲み明かそう
Traviata Libiamo, libiamo ne' lieticalici

時は1850年頃、場所はパリとその郊外。

第一幕、ヴィオレッタの家の客間。上流階級相手の遊び女であるヴィオレッタのサロンで今宵も華かなパーティーが開かれている。彼女の美しさに憧れていた純情な青年アルフレードは、その願いかない宴に招かれ、人々に所望されて乾杯の歌を歌い出す。アルフレードの歌に聴き惚れていたヴィオレッタも惹き込まれて二重唱となり人々も和して合唱となる。

短歌による女声三部合唱

II 軽井沢の四季

浅間は晴れて	夏夏のひかり	登り来し
おほどかに	そこここに	登り来し
浅間は晴れて	山牛蒡の花	碓氷峠に
山裾の	白く咲く	このまひる
わが立つめぐり	草野あまねく	さわがしく鳴く
月見草の花	晩夏のひかり	春蟬のこゑ
輝きて	輝きて	燃ゆるからまつの
輝きて	こぼし花さく	おしなべて
山の道	遠くより	燃ゆるからまつの
雉の啼く声	きこゆ	あさみどり
この高原に	光静けし	
雨の明るさ	夏逝かんとす	
宵々に	祭ばやし	
祭ばやし	楽きこえ	
山に短かき	夏逝かんとす	
音立ちて	光まばゆし	
快きかな	よもすがら	
吹きいし雪風	おさまりて	
くるみ落葉を	山の午前の	
踏みゆけば	光まばゆし	

III 越後の恋歌

と き 朱鷺の歌

朱鷺よ その紅は
夏の日 涼風の口づけにさえ
刷毛持つ指をふるわせる 合歓の花

朱鷺よ その紅は
越後に遺る 綾子舞の踊り手か
紅色のゆらいを頬に写した 處女の姿

朱鷺よ その紅は
行燈に“草生水”を灯した昔
雪の肌 ほのかに染めた 湯上りの女

ある日 朱鷺は 舞い上る
そして 朱鷺は 眼をこらす

行儀のよい たもぎ
田ごとの緑の袖を重ねる
越後平野を
鮭に泡立つ川面を
銀色の帯 信濃川を

ある日 朱鷺は 舞い上る
そして 朱鷺は 眼をこらす

角兵衛獅子の笛が行く 弥彦の里を
春日山の戦の烽火を
砂丘を縫いとる 長い汀を
北へ南へ 千石船が
群青の海を 進むのを

おお 朱鷺よ
何故 身をひるがえすのか

鬼太鼓の乱打に
原始の声を聴いたのか
流人の嘆きの槌音に ひかれたか
夕日に映える翼を
臉の底に焼きつけて
佐渡のかなたへ 消える朱鷺よ
遙かな鳥のかなたへ 消える朱鷺よ

やがて夜空に 天の川
織女 彦星 寄りそうのは いつ
海は 荒海
たらい舟のめざす 番神の灯は どこ

空と海 それぞれの
魂のふれあいを
あの日朱鷺は 見たのだろうか

朱鷺よ 朱鷺よ

それは わたしたちの
胸の中で 生まれ 育ち
やがて 速く 羽ばたくもの
この柔らかに 美しいもの
空と海との睦みあうところ
果てしなく広がる
日本海の夕映え

滅びゆくものへの憧憬を胸に
おお 朱鷺よ
おまえと共に歌おう
青春の日の旅立ちの歌を
朱鷺の歌を
いま

雪 女

びよう びよう びよう
びよう びよう びよう
びよう びよう びよう
びよう びよう びよう

風が吹く
海から 北の風が吹く
砂のつぶてを 抱いて吹く
雪の矢 ひようと
ねらい射つ

ひよう ひよう ひよう
ひよう ひよう ひよう
びよう びよう びよう
びよう びよう びよう

雪女のすすり泣き
“黙っていて”と言うたのに
あんさんは 人に言うてしまわれた
わたしは ほんに 雪女
あんさんの妻であった日が
昨夜のように 偲ばれる。

雪は降る
藁屋根ぐるんで
雪は降る
真赤な椿の花に降る
冷え切った厚い葉かげに
堪えている
越後の女の心根を
知ってか 知らずか
今日も降る

貞心尼のひとりごと
“良寛さまをお慕い申す この心
「はちすの露」にしたためる
墨染めの身の切なさよ
いっそ 雪女になれたなら
白い炎と 燃えようものを、

ひよう ひよう ひよう
ひよう ひよう ひよう
びよう びよう びよう
びよう びよう びよう

風が吹く
空から 北の風が吹く
雪のつぶてを 抱いて吹く
恋の矢 ひようと
ねらい射つ

びよう びよう びよう
びよう びよう びよう
ひよう ひよう ひよう
ひよう ひよう ひよう

眼も 口も
あけてはおれない
吹雪の夜更け
そう これは
雪女の 狂い泣き
雪女の もだえ泣き

越後の恋歌

母よ
越後よ
あなたはなぜ遠い

太陽を慕う 若菜を
残雪の畠で 摘んでいた 赤いたすきよ

笹のだんごに きりきりと
菅を結んだ 指先よ

新米の白さに 丸なすの輝き
日本の秋の 母の香りよ 土の恵みよ

童心に還るまで織り続けた
女の業よ 血のにじんだ 雪の縮布よ

もう 丸くなった背中よ
厨子王の呼ぶ声にも
なぜか 振りむかない

母よ

越後よ
あなたは なぜ遠い

海よ
越後よ
夏の幻想よ
友を失くした日の
夕映えの空よ
朱鷺の羽ばたきよ

いまも
あの越後の海辺は
美しい言葉を繰り返し
紅い はまなすの花は
愛しあう若者たちの胸を
飾るだろうか

いつの日か
渡り鳥たちは
故里の温みを
土の香りを求めて
帰ってくる
たくさんの種を
遙かなところへ運んだ日
歌いつづけた 故里への憧憬を胸に
疵ついた翼をいたわりながら
帰ってくる
母のふところへ
魂の憩うところへ

そして いま
わたしたちは 高らかに歌う
果てしない自然への憧憬を
つきせぬ人間の愛の歌を
夕映えの空の幻想を
雪の夜更けの昔語りを
母への思い 海への思いを

いま
わたしたちは 高らかに歌う
わたしたちは 誇らかに歌う
愛する故里の歌を
わたしたちの心の歌を
越後の恋歌を

ミュージカル
IVマイフェアレディーより

ここは有名なコヴェント・ガーデン王立オペラ劇場の前。今日も帰りを急ぐ人をつかまえては声をかけているみすばらしい花売娘、イライザ……でも、誰一人、足を止めません。そんなイライザをじっと見つめている一人の中年紳士、言語学者のヒギンズ教授です。「もし、その気があるのなら、お前に、すてきな花屋を店ごとプレゼントしよう。」歌・1“**何てしあわせ!**”さて、イライザのお父さんは今日も街の居酒屋で、仲間たちと呑んだくれています。毎日気ままに、楽しく暮しているお父さん、ちょっとばかり夢心地になったイライザから今日は、たっぷり飲み代をせしめ、「さーて、俺たちにも運が向いてきたぞ。神様は俺たちに女房、ガキどもを食わせろとお命じになったけど、ちょっとばかり運がありゃガキが俺たちを養ってくれるとき」歌・2“**運が良けりゃ**”一方、言語学者・ヒギンズ教授邸にひきとられた花売娘イライザ、その日から、レディになる為の激しい特訓が始まります。やがて、イライザはヒギンズ教授のお気に召すような発音が出来るようになったようです。「どうしたのかしら?まるで心が宙に浮いているみたい。もし、わたしに今、翼があつたら空を飛んでみたい!うれしくてふしぎで、とても今夜は眠れそうにないわ……」歌・3“**一晚中踊り明そう**”4ヶ月たったある日、いよいよ今日は、生れ代ったイライザの社交界へのデビュー。装いをこらした貴婦人や紳士たちが集った中で、ひととき美しく光っているイライザは、その日の社交界のスター。もちろん若い男性たちの眼に止まりその中の若者の一人、フレディは一目でイライザの魅力のとりこになってしまうのです。歌・4“**君住む街角**”立派になったイライザ、でも、これはすべて言語学者ヒギンズ教授の実験材料でしかなかったことを知り、邸を飛び出してしまうイライザ。そしてイライザが去った後、イライザを愛してしまったと気づいたヒギンズ教授。イライザもやはりもうヒギンズ教授なしには、生きてゆけなくなっていたのです。イライザは、涙をいっぱいためて戻ってきました。ヒギンズ教授のもとへ……歌・5“**時間どおり教会へ**”呑んだくれのイライザのお父さんも、とうとう明日は結婚式。イライザもヒギンズ教授も、きっと今夜は夜の明けまでみんなと踊り続けることでしょう。

V水のいのち

雨

降りしきれ 雨よ
降りしきれ
すべて
立ちすくむものの上に
また
横たわるものの上に

降りしきれ 雨よ
降りしきれ
すべて
許しあうものの上に
また
許しあえぬものの上に

降りしきれ 雨よ
わけへだてなく
濁れた井戸
踏まれた芝生
こと切れた梢
なお ふみ耐える根に

降りしきれ
そして 立ちかえらせよ
井戸を井戸に
庭を庭に
木立を木立に
土を土に

おお すべてを
そのものに
そのもののに

水たまり

わがちの くぼみ
その この
くぼみにたまる
水たまり
流れるすべも めあてもなくて
ただ
だまって
たまるほかはない
どこにでもある 水たまり

やがて
消え失せてゆく
水たまり
わたしたちに肖ている
水たまり

わたしたちの深さ
それは泥の深さ
わたしたちの言葉
それは泥の言葉
泥のちぎり
泥のうなずき
泥のまどい

だが
わたしたちにも
いのちはないか
空に向う
いのちはないか
あの水たまりの にごった水か?
空を うつそうとする
さきやかな
けれどもいぢぢないのちはないのか

うつした空の
青さのように
澄もう と苦しむ
小さなころ
うつつした空の
高さのままに
在ろう と苦しむ
小さなころ

川

何故 さかのぼれないか
何故 低い方へゆくほかはないか

よどむ淵 くるめく渦のいらだち
まこと 川は山にこがれ
きりたつ峰にこがれるいのち
空の高みにこがれるいのち

山にこがれて 石をみごもり
空にこがれて 魚をみごもり

さからう石は 山の形
さかのぼる魚は 空を耐える

だが やはり 下へ下へと
ゆくほかはない 川の流れ

おお 川は何か
川は何かと問うことを止めよ
わたしたちもまた
同じ石を 同じ魚を みごもるもの
川のこがれを こがれ生きるもの

海

空をうつそうとして
波一つなく 風ぐこともある
岩と混じれなくて
ひねもす
たけり狂うこともある

しかし
凡ての川はみな
そなたをさして常に流れた
底に沈むべきものは沈め
空にかえすべきものは
空にかえした

人でさえ 行けなくなれば
そなたを さしてゆく
そなたの中の 一人の母をさしてゆく

そして そなたは
時経てから うち足りた死を
そつと岸辺にうち上げる
みなさい

これを 見なさい と云いたげに

海よ

ありとある 茶
よこれ 疲れはてた水
受け容れて
すべて 受け容れて
つねに あたらしくはみかえる
海の 不可思議

休まない 汀
波の指 白い指 くりかえし
うまず くりかえし
億の砂 億の小石を
数えつづける
海の 不可思議

くらげは 海の月
ひとつは 海の星
海螢 海の馬 空にこがれ
あこや貝は 光を抱いている

そして 深く暗い 海の底では
下から上へ
まこと 下から上へ
雪は
白い雪は 降りしきる

おお 海よ
たえない 始まりよ
あふれるに みえて
あふれる ことはなく
終るかに みえて
終ることもなく
億年の むかしも いまも
そなたは
いつも 始まりだ
おお 空へ
空の高みへの 始まりなのだ

のぼれ のぼりゆけ
そなた 水のこがれ
そなた 水のいのちよ

たとえ 己の重さに
逆いきれず
雲となり
また ふたたび降るとしても

のぼれ のぼりゆけ
みえない つばさ
いちぢな つばさ あるかぎり
のぼれ のぼりゆけ
おお

東京合唱協会



音楽監督・常任指揮者 内藤 彰

名古屋大学理学部卒業、桐朋学園大学研究科(指揮専攻)修了。山田一雄氏、小沢征爾氏、秋山和慶氏、尾高忠明氏等に師事。1983年まで④山形交響楽団専属指揮者を務める。他に東京交響楽団、新日本フィル、東京フィル、東京シティフィル、新星日本交響楽団他、名古屋フィル等多くの地方プロオーケストラを指揮している。オペラ、オーケストラの分野で活躍する彼の広い視野からのアプローチは、個々の合唱作品において、斬新な魅力を与えてくれることが期待されている。85年4月より新発足する、日本で初めての企業スポンサーによる室内プロオーケストラ、東京トップナッチフィルの常任指揮者に就任予定。



ピアノ 高畑 多恵

桐朋学園大学卒業、インディアナ大学大学院修了。新日本フィルハーモニー、東京シティフィルハーモニーとの共演等、ソロ活動の他伴奏者としても広く活躍している。



ピアノ 清水 義恵

桐朋女子高等学校音楽科を経て桐朋学園大学音楽学部卒業。藤沢弥生、森安芳樹、馬島瑞枝、故井口基成の各氏に師事。また室内楽を岩崎淑、安田謙一郎の両氏に師事。現在、アンサンブルを中心に演奏活動を行なっている。

Soprano

- 前中 栄子
- 遠藤 恵子
- 新川比呂子
- 高尾千春
- 竹腰由美子
- 服部 久恵
- 火ノ川裕子
- 武藤菜穂子
- 森下真弓

Alto

- 稲田 曲紀
- 安藤 真弓
- 家田 紀子
- 石田 幸子
- 大月 真弓
- 織田 淳子
- 釘本 涼子
- 田村真寿美
- 林 里花
- 細見 涼子

Tenor

- 山口 清秀
- 明戸 信吾
- 梅沢 和彦
- 河畑 卓
- 服部 洋一
- 船橋 研二
- 松永 国和

Bass

- 又吉 信元
- 大沢 建
- 小島 聖史
- 佐藤 由朗
- 三浦 克次
- 宮本 聡之

指揮者 家田 厚志

マネージャー 又吉 信元

「東京合唱協会・維持会員」へのお誘い

どうか私共の活動に御賛同下さり、維持会員として私達に御力をお貸し下さいますようお願いいたします。

- 会費(年間)

個人会員	1口	1万円
法人会員	1口	3万円
- 特典
 - (イ) 東京合唱協会の主催するコンサートのご招待。
 - (ロ) 東京合唱協会会員出演のコンサート、オペラ等にご招待又は割引。
 - (ハ) コンサートプログラムに御芳名記載。
 - (ニ) 演奏会のテープ進呈。
 - (ホ) リハーサル見学等。

●お申し込み、お問い合わせ 〒157 東京都世田谷区給田1-18-9-105 東京合唱協会事務局 TEL 03(309)6066

※アマチュア合唱団の指揮、ボイストレーニング、演奏会のエキストラ出演等に、団員を派遣いたします。お問い合わせは事務局まで。

貸練習スタジオ

合唱・オペラ・独奏・室内アンサンブル・軽音楽(L M機材付)
その他にご利用できます。

●御予約・御問い合わせはお電話で

TEL 03-200-3812

東京音楽芸術園

TOGスタジオ

新宿区新大久保1-13-10

山手線新大久保駅より5分
中央線大久保駅より7分
西武新宿駅(北口)より5分



▲サロンコンサート

(おけいこの会、公開レッスン等も)
少人数～60名位まで
美しい音色のピアノでお茶付の素敵なコンサート



▲レッスンルーム

防音完備
宿泊も可(キッチン・バス・トイレ付)
静かな個室でゆっくり練習

シヨールーム▶

クラヴィアハウス
Bösendorfer
Steinway & Sons他
各種販売
(新品、中古、再生品)

Klavierhaus

催物のご案内

「鍋島元子先生のチェンバロ演奏とお話しの会」

——ヴェルサイユ宮のクラヴサン(チェンバロ)音楽——

3月31日(日) PM2:00開演

〈曲目〉J.H.ダンゲルベール/プレリュード 他

〈入場料〉¥2,000(お茶付) ご予約をどうぞ



株式会社

キネブチピアノ

—— 販売 修理 調音 移調 搬入 ——

〒165 東京都中野区上鷺宮5-22-14 TEL.(03)990-0725(代)

—— 特約店 ——

BÖSENDORFER
STEINWAY & SONS

